

## <履修例> —専攻プログラムと進路希望

### 専攻プログラムの選択と履修例

#### 1 世界の仕組みとルール 専攻プログラム <国際経済> を選択

—経済に関心があり、将来は金融機関に就職したい人の履修例—

専門基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 国際入門演習</li> <li>国際文化論</li> <li>現代社会と歴史Ⅱ</li> <li>国際コミュニケーション論Ⅰ</li> <li>○ 国際関係史Ⅰ</li> <li>○ 国際関係論Ⅰ</li> <li>○ 世界経済の仕組みⅠ</li> <li>○ 世界経済の仕組みⅡ</li> <li>○ 経済分析の基礎Ⅰ(消費者と企業)</li> <li>○ 経済分析の基礎Ⅱ(政府と経済政策)</li> <li>○ 政治分析の基礎</li> <li>○ ジェンダー論Ⅱ(法と労働)</li> </ul>
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アジア文化論XV(日本の政治経済)</li> <li>○ ヨーロッパ文化論X(ヨーロッパの政治経済)</li> <li>○ アメリカ文化論Ⅷ(アメリカの政治経済)</li> <li>コミュニケーション論Ⅳ(ジャーナリズム)</li> <li>国際組織論</li> <li>○ 地球環境論</li> <li>アジア太平洋と国際関係Ⅱ</li> <li>ヨーロッパと国際関係Ⅱ</li> <li>アメリカと国際関係Ⅱ</li> <li>○ ミクロ経済学Ⅰ</li> <li>○ マクロ経済学</li> <li>○ 国際経済学Ⅰ</li> <li>○ 国際経済学Ⅱ</li> <li>○ アジア太平洋の経済</li> <li>○ ヨーロッパの経済</li> <li>○ 国際マーケティング</li> <li>○ 国際ビジネス事情Ⅰ</li> <li>○ 国際ビジネス事情Ⅱ</li> <li>○ 開発経済学</li> <li>○ 国際社会特論Ⅱ(経済)</li> <li>◎ 国際基礎演習</li> <li>◎ 国際専門演習</li> <li>◎ 国際卒研演習</li> <li>◎ 卒業研究</li> </ul>
関科連目	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業会計と財務</li> <li>インターンシップ実習</li> </ul>

◎=必修科目、○=専攻プログラム履修推奨科目  
(教養教育科目、資格関連科目等を除く)

## 2 世界の新しいとらえ方 専攻プログラム <移民・マイノリティ> を選択

—移民やマイノリティの問題に関心があり、将来はNPOで働きたい人の履修例—

専門基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 国際入門演習</li> <li>○ 国際文化論</li> <li>○ 比較文化論</li> <li>○ 現代社会と歴史Ⅱ</li> <li>○ 現代社会と思想・宗教Ⅱ</li> <li>○ 現代社会と文学Ⅱ</li> <li>○ 国際コミュニケーション論Ⅲ</li> <li>○ 国際関係論Ⅰ</li> <li>○ 国際関係史Ⅰ</li> <li>○ 世界経済の仕組みⅠ</li> <li>○ 社会情報分析の基礎</li> <li>○ ジェンダー論Ⅳ(セクシュアリティ)</li> </ul>
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ヨーロッパ地域文化入門</li> <li>○ ヨーロッパ文化論Ⅷ(ヨーロッパの社会1)</li> <li>○ アメリカ地域文化入門</li> <li>○ アメリカ文化論Ⅰ(アメリカ史1)</li> <li>○ アメリカ文化論Ⅴ(アメリカの文学)</li> <li>○ アメリカ文化論Ⅶ(アメリカの社会2)</li> <li>○ アメリカ文化論Ⅷ(アメリカの社会3)</li> <li>○ アメリカ地域論Ⅱ(中南米)</li> <li>○ 第2言語習得論</li> <li>○ コミュニケーション論Ⅵ(ジェンダー)</li> <li>○ 国際法Ⅰ</li> <li>○ 国際組織論</li> <li>○ イスラムと国際関係Ⅱ</li> <li>○ 国際協力論</li> <li>○ 国際協力とNPO</li> <li>○ 開発環境協力論</li> <li>○ 国際協力特講Ⅱ(移民・難民)</li> <li>○ 国際協力特講Ⅳ(社会協力)</li> <li>○ 国際社会特論Ⅲ(国際協力)</li> <li>◎ 国際基礎演習</li> <li>◎ 国際専門演習</li> <li>◎ 国際卒研演習</li> <li>◎ 卒業研究</li> </ul>
関科連目	<ul style="list-style-type: none"> <li>地理情報論</li> <li>海外事情／フィールドワーク</li> </ul>

◎＝必修科目、○＝専攻プログラム履修推奨科目  
(教養教育科目、資格関連科目等を除く)

### 3 多様な諸地域の社会と文化 専攻プログラム <ヨーロッパ研究> を選択

—ヨーロッパの文学や芸術に関心があり、将来は国際運輸・旅行に関わる仕事に就きたい人の例—

専門基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 国際入門演習</li> <li>○ 国際文化論</li> <li>○ 比較文化論</li> <li>○ 現代社会と歴史Ⅱ 現代社会と思想・宗教Ⅱ</li> <li>○ 現代社会と芸術Ⅰ</li> <li>○ 現代社会と芸術Ⅱ 現代社会と文学Ⅱ</li> <li>国際コミュニケーション論Ⅱ</li> <li>国際コミュニケーション論Ⅲ</li> <li>○ 国際関係論Ⅰ</li> <li>○ ジェンダー論Ⅰ(表象)</li> </ul>
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ヨーロッパ地域文化入門</li> <li>○ ヨーロッパ文化論Ⅰ(ヨーロッパ史1)</li> <li>○ ヨーロッパ文化論Ⅲ(ヨーロッパの思想・宗教)</li> <li>○ ヨーロッパ文化論Ⅳ(ヨーロッパの芸術1)</li> <li>○ ヨーロッパ文化論Ⅴ(ヨーロッパの芸術2)</li> <li>○ ヨーロッパ文化論Ⅶ(ヨーロッパ大陸の文学)</li> <li>○ ヨーロッパ文化論Ⅷ(ヨーロッパの社会1)</li> <li>○ ヨーロッパ地域論Ⅰ(ヨーロッパの地誌)</li> <li>○ ヨーロッパ地域論Ⅲ(フランス)</li> <li>○ ヨーロッパ地域論Ⅴ(地中海)</li> <li>アメリカ文化論Ⅲ(アメリカの思想・宗教)</li> <li>アメリカ文化論Ⅳ(アメリカの芸術)</li> <li>○ 国際文化特論Ⅰ コミュニケーション論Ⅲ(映像メディアと情報)</li> <li>○ コミュニケーション論Ⅵ(ヨーロッパ)</li> <li>○ ヨーロッパと国際関係Ⅰ イスラムと国際関係Ⅰ</li> <li>国際文化交流論</li> <li>国際協力特講Ⅲ(観光・文化財保護・まちづくり)</li> <li>◎ 国際基礎演習</li> <li>◎ 国際専門演習</li> <li>◎ 国際卒研演習</li> <li>◎ 卒業研究</li> </ul>
関科連目	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像文化論</li> <li>海外事情／フィールドワーク</li> </ul>

◎＝必修科目、○＝専攻プログラム履修推奨科目  
(教養教育科目、資格関連科目等を除く)

#### 4 言語でつながる社会と文化 専攻プログラム <中国語圏社会/文化> を選択

ーアジア地域、特に中国に関心があり、将来は貿易に関わる仕事に就きたい人の履修例ー

専門基礎科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 国際入門演習</li> <li>○ 国際文化論</li> <li>○ 比較文化論</li> <li>○ 現代社会と歴史 I</li> <li>○ 現代社会と思想・宗教 I</li> <li>○ 現代社会と文学 I</li> <li>○ 国際コミュニケーション論 II</li> <li>○ 国際関係史 II</li> <li>○ 世界経済の仕組み I</li> <li>○ 世界経済の仕組み II</li> <li>○ 経済分析の基礎(政府と経済政策)</li> <li>○ ジェンダー論IV(地域と階層)</li> </ul>
専門科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ アジア地域文化入門</li> <li>○ アジア文化論 I (日本史 I)</li> <li>○ アジア文化論 III (中国史 I)</li> <li>○ アジア文化論 VI (中国の思想・宗教)</li> <li>○ アジア文化論 VIII (中国の芸術)</li> <li>○ アジア文化論 X (中国の文学)</li> <li>○ アジア文化論 X I (日本の社会)</li> <li>○ アジア地域論 I (日本・中国の地誌)</li> <li>○ アジア地域論 II (東アジアの社会と文化)</li> <li>○ 国際文化特論 II</li> <li>○ 国際文化特論 III</li> <li>○ 社会言語学</li> <li>○ コミュニケーション論 V (アジア)</li> <li>○ アジア太平洋と国際関係 I</li> <li>○ アジア太平洋と国際関係 II</li> <li>○ アメリカと国際関係 I</li> <li>○ アジア太平洋の経済</li> <li>○ 国際ビジネス事情 I</li> <li>○ 国際協力特講 I (民主化とガバナンス)</li> <li>◎ 国際基礎演習</li> <li>◎ 国際専門演習</li> <li>◎ 国際卒研演習</li> <li>◎ 卒業研究</li> </ul>
関科連目	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 企業法務</li> </ul>

◎＝必修科目、○＝専攻プログラム履修推奨科目  
(教養教育科目、資格関連科目等を除く)

2つの専攻プログラムを選択する場合

柔軟な組み合わせが可能です。その場合の履修例を以下に示します。

**1：将来は、開発途上国との協力に関わる仕事をしたい**

「国際協力・国際公共政策」を選びます。開発途上国の経済開発や平和構築の実務経験豊富な教員が指導します。併せて、＜言語でつながる社会と文化＞の3つの専攻プログラムの中から1つを選択し、外国語コミュニケーション能力を磨きます。

**2：めまぐるしい国際社会の変化に対応するジャーナリズムやマスコミの世界で働きたい。**

「グローバル化」に、もう1つの専攻プログラムを、関心に応じて組み合わせます。例えば、現代の国際社会を理論的に捉える「国際関係」、国境を越えた普遍性を持つ経済学の理論が身に付く「国際経済」、比べることで文化の理解を深める「比較文化」、美術、映画、アニメ、小説など人種・民族や世代を超えた訴求力を研究する「表象文化」などが考えられます。

**3：外国語を武器にして活躍する仕事をめざす。**

まず「国際コミュニケーション」と、＜言語でつながる社会と文化＞の3つの専攻プログラムのいずれかを選択し、外国語によるコミュニケーション力を高めます。あるいは将来の進路に国際ビジネスを考えるなら「国際経済」、諸外国の歴史・文化への理解を深めるには、＜多様な地域の社会と文化＞の3つの専攻プログラムのいずれかと組み合わせるのがよいでしょう。

**4：地域の振興にかかわる仕事をしたい。**

「都市・コミュニティ」を選択し、＜多様な地域の社会と文化＞の3つの専攻プログラムのいずれか、または、「国際協力・国際公共政策」と組み合わせ、文化遺産や自然遺産を生かした持続可能な開発の、内外の成功事例を研究するのもよいでしょう。

**5：国際法の理解を深め、国際公務員や研究者を目指したい。**

この場合は、当然「国際法」が主たる専攻プログラムになります。関連の学部専門科目に加えて、教養教育科目の「法学概論」、「法学（日本国憲法）」や、関連科目の法令・財務科目群の諸科目を併せて履修すると力がつくでしょう。人権・社会正義の観点から「ジェンダー」、「移民・マイノリティ」、「国際協力・国際公共政策」などと組み合わせると、理解が深まります。